

梅原の子

Umehara Elementary School
梅原小学校 学校だより
令和6年12月25日号

安心できるまち、梅原地域・安心できる学校、梅原小学校

校長 埴岡 靖司

12月24日(火)クリスマスイブ。1,2年生のみなさんが、地域のオカリナグループ「オレンジの華」のみなさんと、オカリナのかわいい音色をバックに「ジングルベル」を踊りました。ひとつの大きな輪になって、一緒に踊っていると、うきうきした気分になりました。そして、「かえるのがっしょう」が始まりました。以前、公民館活動の様子を学ぶために活動を見学した時に、子どもが「かえるのがっしょう」の音色に合わせて、ドレミを体で表現したことにとっても喜んでいただき、今回は一緒に体で表現しました。「♪ドレミファミレド♪〜」と、曲が始まると、またまた楽しい輪が広がりました。サビの部分「ド・ド・ド・ド」の部分は、かえるのようにぴょんぴょんはねる動作です。子どもも大人もぴょんぴょんはねる様子が、なんとほほえましいこと。

地域の方の優しいまなざしの中で、安心して子供が育っている。梅原地区のすてきな一面を見ることができました。

私は、梅原小学校に関係するみなさんにとって、「安心できる学校でありたい！」と願って取り組んできました。このような交流が、まさに安心できる学校の姿だと思いました。

また、最近、学校の中でも、子ども同士が優しいまなざしで育っている場面がありました。それは、新たなルール(約束事)を増やすことなく、安心して過ごしやすい学校にしてくれたことです。

休み時間のグラウンドの使い方について、お互いに譲れなくなり、校長室に相談にきました。その内容は、「みんなが楽しめるようにグラウンドを使いたい」ということです。誰かを排除して、自分だけが良ければよいという考え方ではありません。とてもすてきな訴えです。このような訴えの解決方法として、使い方の約束を作ろうとしがちです。しかし、新たなルールを増やすことは「みんなが楽しめるように」という前向きな願いの実現につながらないと考え、全校学級会を行って解決することを提案しました。話し合いの場では、「ゲームの仕方を見直す」「譲り合う」等、ルールを増やすよりも、自分事として解決できる方法を考えている姿が印象的でした。全校学級会の後のグラウンドは、お互いにやりたい遊びができる、だれもが安心して遊ぶことができる場所になっていました。

安心して過ごすには、お互いに優しいまなざしで思い合うことが大事だと、この2つの出来事から教えてもらいました。

まもなく、新しい年が始まります。互いに思い合う姿いっぱいになるのを、楽しみにしています。よいお年をお迎えください。



△地域の方と、サビの部分の「ド」を表現！



△全校学級会 梅原小だからできる学習